

別府市学校給食・食育推進等検討委員会

第5回 議事録概要版

- 日 時 令和2年6月9日(火) 15:30～
- 場 所 野口ふれあい交流センター 1階集会室
- 出席委員 福谷委員長 高松副委員長 藤澤委員 秋吉委員 亀川委員 寺岡委員
大塚委員 湊委員 平田委員 大鶴委員 10名
- 事務局 稲尾教育部長 杉原次長兼課長 古本 加藤 豊永
豊田 太田 相良 宇野 佐藤 末吉 光永
- 傍聴者 なし 報道関係者2社
- 会次第
 1. 開会
 2. 別府市新学校給食共同調理場整備基本計画について
 - ① 配送計画について
 - ② 基本方針について
 - ③ 食育推進等検討委員会で協議した事項について
 3. 新学校給食共同調理場の整備を契機とした食育の充実に向けた今後の取組について

■配布資料

- (1) 別府市学校給食・食育推進等検討 第5回委員会資料

■協議内容

- (1) 別府市新学校給食共同調理場整備基本計画について

【事務局】

- ・ ①配送計画について説明。

【委員長】

- ・ 配送計画のシミュレーションについて委員の皆さんから質問やコメントをいただきたい。
- ・ まず、私から一つ、表中の番号は何を示しているのか。

【事務局】

- ・ コンテナの数を示している。(配送計画表の見方について説明。)

【委員】

- ・ 石垣小学校は 11 時到着ということでよいか。

【事務局】

- ・ 11 時ごろに石垣小学校に届き、春木川小学校に 11 時 10 分に届く計画である。そこから給食の準備をし、2 時間喫食が可能となっている。給食の時間が終わり、片付けが終了した 13 時 10 分ごろから、今度は配送した順とは逆に回収する計画としている。

【委員長】

- ・ 他に質問はないか。

【委員】

- ・ 素朴な疑問だが、石垣小学校が 11 時到着、春木川小学校にその 10 分後に到着というのは、コンテナを降ろして、指定の位置に設置・確認し、春木川小学校までの細い道路を歩いて 10 分で到着するのか。コンテナを運んでいるので、慎重に運ばなければならないし、その一連の運転と作業が 10 分でできるか疑問である。これは実際に動かしてみないと分からないものか。

【事務局】

- ・ まず配送の担当者は、配送をしてコンテナを降ろすと次の学校へ配送する。配膳する人は別にいると考えている。

【委員】

- ・ 理解しているが、トラックを停車して一連の作業もある中で、10 分で次の学校に到着できるものなのか不安に感じた。出来るというのであれば、可能なのだろうと思うが。

【事務局】

- ・ 実際にセンターから中学校にコンテナを運んでいる職員と一緒に車を走らせ、コンテナを置くのにどれぐらい時間がかかるか確認している。4～5 分で対応可能と確認しており、計画では、その時間より少し長く確保しており、実際に行けると判断している。

【委員】

- ・ 行くだけで 10 分かかりそうではある。私は石垣小学校の出身であり、案外道が狭いことは知っている。

【事務局】

- ・ 石垣小学校は、校舎とトイレ棟の間をバックで給食室まで車を入れるため時間がかかると思っていたが、簡単に入れることができ、10 号線をずっと下って踏切の手前を左に曲がって春木苑のところを回っていくので思ったほど時間がかからない。

【委員】

- ・ 実際にセンターに勤務していた者として、コンテナの上げ下ろしがそんなに簡単だったとは感じていない。1 台に 2 人乗務すると思う。トラックの中ではコンテナが動かないように十文字で留めており、300kg 近いものを容易に受け入れができるのか分からない。2 段階配送の経験がないのでよくわからないが無理ではないか。皆さんご存知かもしれないが、去年、他の自治体でトラックの扉が開かなくなった、途中でパンクしたなど新聞沙汰になったこともある。大分市では常時 1 台予備の車両が調理場で待機している。

【委員】

- ・ 急いで運んで何か起きないか、実際に食缶の中に物を入れて運び 10 分で済むか。再度確認をお願いしたい。給食は落としてはならないし、こぼしてはならない。温かいうちに届けることが大前提であり、実際にできるか確認をお願いしたい。

【事務局】

- ・ 検証では、実際にトラックからのコンテナの積み下ろしはしていない。

【委員】

- ・ 食中毒の問題もあるため、温かい給食の提供を考えると非常に大事なポイントなので、2 段階配送を含めて本当に望ましいものかどうか検討してほしい。何度も行き来することは事故のリスクが上がるわけであり、コンサルタントとこの方法と別の方法を並行して検証してもらえるとありがたい。

【委員長】

- ・ 他にないか。

【委員】

- ・ 2段階配送にしないとコンテナが入らないため採用しているのか。

【事務局】

2tトラックを想定している。中学校で使っているトラックは今のコンテナで6つまでしか積めない。共同調理場に一元化されるとコンテナサイズが大きくなるため、今の2tトラックでは6コンテナ入らないと考えられる。先に食器を運んで給食を後から届け、2時間喫食を実現しようという考え方で別載（2段階配送）を考えている。

【委員】

- ・ 2段階配送でなければならないことは確認が出来たが、大分市でされているような対応はするのか。

【事務局】

- ・ 2段階配送にする理由は、例えば大分市では学校数が多く、何度も行き来できないため1台のトラックに食器と食缶を積んで運んでいる。その中で、予備のトラックが待機しているとのことなので、トラブルがあったら連絡を受けて、新しい食缶を運べる体制を考えなければならない。

【委員】

- ・ 配送から考えると、2段階配送は学校側に配膳室があり、そこにはクラスごとに分けられる配膳棚があり、専属の配膳員がいるという前提でよいか。

【事務局】

- ・ 誰が対応するのかはまだ決まっていないが、その方向で考えている。

【委員】

- ・ 昨年、小学校での説明会で、給食コンテナが運ばれてきたときに、クラスごとに分けるのはどのようにするのか質問した際、そこにいる先生や手が空いている先生たちがいるだろうとのことであった。
- ・ 低学年のクラスを持たれている先生方は休み時間に下階に降りてこられない方が多い。一旦上階にあがってしまったら全く降りるタイミングがないという方もいるようである。今までなかった作業が増えるので、そこは先生に負担をかけるのではなく、別に採用してほしい。その点は、これから検討されるとのことなので、保護者としては、先生の時間は子供のために使ってほしい。

【事務局】

- ・ 昨年の保護者説明会のことは記憶している。配送経路は、まずトラックを使って物理的にどれくらい時間がかかり、各学校に持っていけるかという検証シミュレーションである。それと同時に上げ下ろし、それから配膳のことがあるので特に今回小学校に関してはプラットホームもないため、市では当然改修計画、プラットホームを作る、あるいは配膳室を改修してそのコンテナを入れるスペースを作っていることを考えている。また、その先に配膳棚を用意してそこに運ぶという作業もシミュレーションしている。その時にその作業を例えば配送した運転手が事前にやれるのか、やれないとすれば誰がそれをやるのか、中学校で先生がやっているようなことが可能なのかというようなことも検討している。中学校は教科担任制で先生たちが必ずしもクラスを持っているわけではないが、小学校の場合は基本的にクラスを持っているということもあり、特に低学年となった時になかなかそれが出来ないということで、今回答えたように配膳をするとき、この作業を誰がやるのかというのは市の方で検討している。一連の作業をシミュレーションしながらやっているところなので、そのように理解してもらえればと思う。

【委員長】

- ・ やってみながら改善しながらという方法もあると思う。

【事務局】

- ・ シミュレーションについては今日の意見を踏まえて少し精査をしたい。石垣小学校から春木川小学校まで10分で行けるのかという質問であった。ある程度時間の余裕はみており、グーグルでは7分で行けると出た。ただし確かにそれに加えて、重いコンテナを下ろすということもあるため、もう少し精査していきたい。

【委員長】

- ・ 余裕を確保することが必要のようである。配送については以上で宜しいか。それでは続いて基本方針について説明をお願いします。

【事務局】

- ・ 基本計画における基本方針について説明。

【委員長】

- ・ この基本計画について追加すること、あるいは強化すること、あるいは何か修正してほしいことがあれば意見ををお願いしたい。

【委員】

- ・ 地産地消のところで、これからは幅を持たせた積極的な活用ができると考えてよいということか。今のやり方ではなくて、様々な方法を活用できるのか。今は登録している業者3社しか注文ができないので、それがもっと幅広く注文できるように模索していくことで宜しいか。

【事務局】

- ・ そちらについては、前回、農家の実態と学校の実態を共有させて頂いた。その時に業者としか取引がなく、農家とのパイプがないとの話があった。今後別府市産2.4%を20%、30%に上げるためにはシステムが必要だと思っている。農家が直接学校と取引するのは簡単ではないと思うが、今までにない新しいシステムを計画的にやろうと考えており、例えば、10年後には5%、20年後には20%のような設定にしつつ、共同調理場で様々な取り組みを検討したい。

【事務局】

前回、非常にたくさんのご意見を頂き、それを受けて協議をさせて頂いた。まず学校給食でどのような食材がどれくらい必要なのかを、どの時期にどれくらい必要なのか、そういった一覧のようなものが提供できれば、それに対して現状ではこれくらい提供できるが、休耕している、作付けしないところを回ってみて買い取ることができるのであれば、そういうところも開発することができるという話が出来たので、引き続き、関係団体と協議をしながら2.4%を少しでも上げられるような新共同調理場にしていきたいと思う。

【委員】

- ・ 前回もお話したが、大分県臼杵市の取り組みに近いものができるのかなと思った。なかなか地元の農産物を増やすのは難しい。年々少しずつでも増えていけばいいのかなと思った。

【事務局】

- ・ 地産地消について基本計画の基本方針としてどのような書きぶりで入れるか非常に大きな勇気がいるところではある。この2.4%という数字も表に出しているが、別府市産を拡大していくというのは、様々な課題がある。大きな課題があることは我々も認識している。それを少しずつ増やしていける取り組みをしていこうという市の基本姿勢、基本的な方針を示しているので、直ちに大きく別府市産のものが増えていくわけではない。しかし、様々な生産者や流通体系、それらを

含めて進めていきたいという方針を示している。

【委員長】

- ・ 他のこれまで検討してきた内容は基本方針に組み込まれているか。あるいは自分たちが発言した中で抜けていたり削られているものがあれば、是非発言して頂きたい。

【副委員長】

- ・ 美味しい給食のところだが、栄養バランスではなく、「栄養素バランス」にして頂けるとありがたい。そして1行目にある手作り給食の提供というのは、具体的にどのようなことを言っているのか。

【事務局】

- ・ これまでの委員会で議論してきた中で、手作り給食にどこまで踏み込むかということがあるため、そこは新しい調理機器を導入することによって効率的に調理が進められる。その中で生じる余力という適切ではないが、一手間かけることができることは出来るだけやりたい。専門家としっかり話をしながら、子どもたちが本当に笑顔になれるような給食を提供するために、どのようなことをしたらよいかを行政だけではなく、調理をする現場の方の意見も聞きながら実現させていきたいと思っている。そのための食育検討を基本計画策定と継続して続けていきたい。

【委員長】

- ・ 学校関係者はよろしいか。食育の話がだいぶ出ているが、その辺を含めていかがか。

【委員】

- ・ 「栄養素バランスに優れた」という記述があるが、これで美味しい給食が簡単にできるのか。できるに越したことは無いが、現状は残菜が結構増えていて、これを目標にやっていただけというのは非常にありがたい。しかし、実際どうなのか、というのが率直な意見である。

【事務局】

- ・ 美味しい給食の考え方で、以前、味が美味しいだけではなくて様々な捉え方があるのではないかという話があった。いろんな捉え方の美味しいを子どもたちに提供していき、例えば残菜にしても子供たちに食育を進めていく上で、自分の体に

必要なものだからあまり好きではないが食べなければならない、体に必要なものはやっぱり美味しい、そういう美味しいという考え方になるのではないかと思う。子どもたちにとって、いろんな意味での美味しいを提供していくための食育をしたい。美味しい給食の次のステップ、食育というのは非常に関連性が評価される部分だと思うが、それを今後検討委員会で継続してお力添えして頂きたいし、また発展的に食育を考えていけるようなセッションを再構築していくことも必要になってくるのではないかと思う。

【委員長】

- ・ もったいないから食べてもらいたい。先生方に生徒に強制するのは難しいが、もったいない、食べきるというのは先生方が生徒に伝えて言うしかない。

【副委員長】

- ・ 単独校から共同調理場に一元化するので、単独校にいた栄養士さんたちが学校にいなくなる。今まで食育を担っていた方がいっしょらなくなる。栄養素バランスについて先生がお話してくださるだろうが、給食を提供されたときに、実際に教育をするのは誰になるのか、とても危惧している。校長先生に「残菜が多いから減らしましょう」と言ってもらうのも、忙しいから難しい。地域連携と学校連携と共同調理場が一緒になって考えていかななくてはならないため、教育には絶対人が必要である。先生は忙しいので、全部やってもらうというのは厳しい。食育、健康被害が起きたときにどういう対応をしていくか、そのときの中心となって対応されるのは誰か、主体は誰かが明らかになっておらず、少し危惧している。

【事務局】

- ・ 今ご指摘があった件については、基本的に食育を推進していくための体制は栄養士であり、やはり栄養教諭、養護教諭、それから先生が忙しいというご意見もあったが、担当教諭も当然授業の中で教育していくことになるため、今の意見を踏まえて、このページにそういった体制についても触れておきたいと思う。

【委員長】

- ・ 基本計画につきまして他に付け加えること、あるいは訂正することはないか。
- ・ それでは議事3に入る。食育推進等検討委員会で協議した事項について。今までの4回を振り返ってみたいと思う。事務局から説明をお願いする。

【事務局】

- ・ 食育推進等検討委員会で協議した事項について説明。

【委員長】

- ・ 何か意見、あるいは感想も含めてお願いしたい。

【委員】

- ・ 「日本一美味しい給食」とプレッシャーを感じながらお話を聞いていたが、スチームコンベクションは別府市では南小学校に設置されているだけである。調理員も栄養士も慣れていない部分はあるが、それに関して専門家をお願いして研修させて頂いたり、レパートリーを増やしたりするための検討もさせてもらえるのか。

【事務局】

- ・ 共同調理場が運用される前に研修等の場を設けたいと考えている。

【委員】

- ・ 共同調理場に勤務したことがなく、袋井市の施設見学もできていないため、食数に対して適正な規模なのかよくわからないが、検討はされているのか。

・

【事務局】

- ・ 袋井市には年度当初に見学に行く計画を立てていたが、新型コロナウイルスの影響で実現できていない。このような状況だが時期をみて、見学に行くことを検討している。

【委員長】

- ・ 他に何かないか。感想も含めてあればお願いします。

【委員】

- ・ 保護者としては見学スペースができるということで、学校の方と子どもたちを連れて保護者も一緒に見学が出来たらよいと思う。それによって、どのように給食が作られ、どのような人たちが関わっているのかを子どもたちや保護者が知ることができる。とても期待している。

【委員】

- ・ 保護者からも大分市など共同調理場を見学したいという声が上がっていたため、可能であれば計画して頂きたい。

【委員長】

- ・ 他にになにか付け加えることはないか。

【副委員長】

- ・ 災害対応に関してはどうなったのか。

【事務局】

- ・ 災害については二面性がある。災害が起きた時に給食を再開するという災害対応なのか。それとも共同調理場を例えば地域の方への炊き出し機能として活用するということか。

・

【副委員長】

- ・ 両方ともあるのか。一方は必ず必要である。あとは食中毒が起きた場合に2 献立にするということか。それにより食中毒は防げるという話が以前の案に入っていたが、いかがか。

・

【事務局】

- ・ 複数献立で食中毒対策をするということ、あとは法令に基づき施設は耐震性を含め災害に強い施設を目指すことは考えている。

・

【委員】

- ・ 備蓄はどうなっているのか。大分市ではアレルギーを含まないレトルトを 8000 食備蓄してある。小学校の単独調理場で急に水が出なくなり給食が作れない状況になったときなどに提供できる体制にはなっている。

・

【事務局】

- ・ 今、話があった備蓄という点では新共同調理場では想定していない。防災食育センターにして大規模な備蓄をしている自治体もあるが、新共同調理場に関しては土地の形状や敷地も広くないこともあり、大規模な備蓄の想定はない。有事の際に対応が出来ないかという意見はあるので検討しているところである。

【委員長】

- ・ 他にないか。それでは次の項目について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ 新学校給食共同調理場の整備を契機とした食育の充実に向けた今後の取組について説明。

【委員長】

- ・ 検討委員会を踏まえて、今後別府市の給食、食育について様々な提案がなされると思う。これまでの説明について、意見、質問はあるか。具体的に実行しながら、さらに良いものをつくっていき、理想に近づけていく。意見がないようであれば以上で本日の内容をすべて終了とする。ご協力ありがとうございました。

【事務局】

- ・ ありがとうございました。今日は基本計画策定前の最後の検討委員会ということで基本計画に関するまとめにさせて頂いた。たくさんのスタッフが新共同調理場をつくるために様々な調査をしている。たくさんの意見をいただいたため、今後しっかりハードの整理と併せ、ソフトも取り組んでいくべきだと考えている。6月末に基本計画を策定し公表するが、その後、新共同調理場建設に向けた準備を始める。この検討委員会は来年の3月31日まであと2回あるため、その中で情報提供させて頂きたい。引き続きお願いしたい。

以上